網張ビジターセンター ニューズレター

Amihari visitor center

Vol.64
2016.1

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori ＊ **網張の森の生き物たち** ＊ amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

"アカゲラ"のランチタイム

「いつになったら根雪になるんだろう？」…年末の恒例だったドカ雪にフラれ、「お正月には降るでしょう」という期待も肩すかしに終り、いささか拍子抜けした年明けのある日、かろうじてスノーシューで歩ける程に雪の積もった森の中でアカゲラに出会いました。雪が多くないとはいえマイナス８、９℃の寒さに対応すべく胸から腹までの羽をフワッと膨らませまん丸になりながら、せっせと木をつつき四方八方に木くずを散らしエサを探しているようでした。つつきやすい木だったのか、木の周りをまんべんなく回ったり、尾羽を器用に支えにして使いながら垂直に下ったりしていました。アカゲラは季節を問わず森の中で活動していますが、葉っぱのないこの時期は特に見つけやすく、風で木々がしなる音だけが聞こえる静かな森の中でひときわ華やかに見えました。

What is "Akagera"?

『お尻の赤いキツツキ』

キツツキ科
体長：24cm 前後
分布：北海道・本州

雑食性で昆虫のほか木の実も食べる。肩羽が白く後ろから見ると逆ハの字に見えるのが特徴。堅い木をつついても頭に衝撃が来ない構造は、バイクなどのヘルメットの開発に用いられている。

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori

参道沿いのスギ並木奥にビジターセンターが見える

キャンプ場の入口から網張の森に入り、番号標識に沿って見どころを紹介してきたこのコーナーもいよいよ最終回となりました。古くから人々の往来があった事を伝える網張薬師社周辺は、静けさの中に独特の趣があります。

網張の森 セルフガイド

スギ　広葉樹が葉を落とした中、常緑針葉樹のスギはひときわ目をひく存在です。網張薬師社周辺にみられるスギは植林されたものと考えられますが、いつの時代に植えられたのかは定かではありません。神社にスギが好んで植林された理由は諸説ありますが、冬も青々とした葉を保ち天高くそびえる姿に、人々は神聖さを感じて来たようです。また、スギは日本の固有種であり、縄文時代から建材等に利用されるなど、日本人の暮らしや文化に大きな影響を与えてきた樹木といえそうです。スギ林が生き物の暮らしに与える恩恵は、広葉樹の森に比べると多くはありませんが、リスが樹皮を巣材に用いたり、厳寒期にヒガラなどが種子を食べるなど活用されています。

休暇村に宿泊された方も散策をかねて網張薬師社によく訪れる

セルフガイドの標識について

春から散策のサポートしてくれた8本の標識ですが、積雪に備え昨年11月下旬に取り外し作業を行いました。標識にはクモの巣やガの卵などの痕跡もあり、人以外にも少々役立ったようです。雪がとけ散策路が現れる5月下旬頃、冬眠から目覚めた標識たちは現場に復帰する予定です。

Amihari Birds

アミハリ・バーズ　Vol. 7

ツグミ

科名:ツグミ科
全長:約24cm
生態:冬鳥
分布:九州以北

昨年の11月下旬、キュキュキュと地鳴きをするツグミの群れを5～6羽見かけました。ツグミは冬鳥で、遠くシベリアやカムチャッカからやってきます。長旅で消耗した体力を取り戻すかのように、熟したキハダの実をついばみ、数日も経たないうちに完食してしまいました。他にも、ナナカマドやガマズミなど様々な木の実をツグミは食します。

年が明け、ツグミの姿はほとんど見かけなくなりました。山地等で過ごした群れは分散し、より過ごしやすい暖かい低地へ移って行ったようです。畑や田んぼ・川原・芝生などで、ぴょんぴょん跳ね歩く姿を見られるかもしれません。ぐっと胸を突出し立ち止まっては、地面や地中の種子や昆虫などの餌を食べ、春には繁殖地でもある北国へ旅立っていきます。

来年、国立公園編入６０周年を迎えて今は昔・・・　網張近辺　今昔ものがたり

厳冬期の網張は、今でこそスキーや温泉を楽しみに多くの人たちが訪れ活気に満ちていますが、６０年前はどうだったのでしょうか？　温泉の湯守も里へ降りた冬の山中で寒さに耐えながら働いていた人達がいました。

炭を焼く男達です。現在、ありね山荘の管理人で南岩手山岳救助隊雫石隊長を務める岡森 喜与一（きよかず）さんも父親に連れられて山での仕事を経験した一人です。

第四話・・網張の森で炭を焼いていた時代を知る岡森さんの話・・

「太すぎたり、曲りくねった樹は炭に適さないので伐らないで残した。今、目にする老樹はそうやって残されたものだろう」

中学生時代の岡森さん。この頃からお父さんの山仕事を手伝った。

「初めて馬車に乗せられて、炭焼きに連れて行ってもらったのが小学校五年生の時だった。まだ小さいころは炭小屋のまわりでよく遊んだ。ところが帰りが怖い。夕方、山を降りるころになると、どんどん暗くなる。風が吹いてｻﾞﾜｻﾞﾜと笹がなる。突然、藪の中で、ﾄﾞﾄﾞｯと大きな音がしてびっくり。今考えるとﾆﾎﾝｶﾓｼｶだったのかなあ。あとはﾖﾀｶが足元から飛び立ったり。帰り道が怖くて『わあー』と大声出しながら家へ走って帰ったものだ」・・お父さんは忙しい農家仕事が一段落した十月末から、田の準備が始まる翌年四月までの半年間、炭を焼いたそうです。「毎年、営林署から立木を払下げてもらう。その際、尾根筋は避けて沢筋を選ぶ。作業しやすくて炭に適した真っ直ぐな木が多いからね。当初はﾁｪｰﾝｿｰを持たず一本一本ﾉｺｷﾞﾘで伐ったから大変だったよ」・・今は絶好の自然散策ｺｰｽとなっている網張の森一帯も炭焼き場所だったそうです。

「岩手山の裾野に沿って有根沢から正徳沢、妻ノ神沢と東へ向かって炭焼きを続けていった」「木の高さと太さが揃っているのは、炭焼き後に成長した二次林だからだ。斜面途中で不自然に平らで少し窪んでいる所が昔の炭焼窯の跡、気をつけていればすぐわかるよ」「いつだったか、妻ノ神沢付近で木を伐っていたら炭小屋の上に真っ黒なﾂｷﾉﾜｸﾞﾏが上っている。『俺のﾅﾜﾊﾞﾘで勝手に木を伐りやがって』と怒っていたのかもしれないね」「ﾐｽﾞﾅﾗが一番品質の良い炭ができる。他のｻﾜｸﾞﾙﾐやｻｸﾗ類、ｲﾀﾔｶｴﾃﾞ、ﾌﾞﾅもそうだが雑炭と言って質が劣り値も安かった。ｶﾝﾊﾞ類は使わなかった」「石を一坪ぐらいの大きさでﾄﾞｰﾑ状に積んでいき窯を造った。四つ割りにした木を熱した石窯に隙間なく詰めて一昼夜、くど（煙出し）から出る煙の色が白色から青みを帯び、やがて煙が出なくなったら窯から取り出し、土をかけて冷やし、ふるいをかけ白炭の出来上がり。真冬でも作業中は熱くて汗びっしょりだった」「寝泊まりするところを居小屋（いごや）といってすきまだらけ。朝起きると布団の上にうっすら雪が積もっていたな。当時の網張温泉は、くずれかけたような悲惨な建物で風呂に入っても刈ｯとした垢だか泥だかわからないような有様で気持ち悪かった」・・お父さんは出来上がった炭を馬ｿﾘに積んで家に戻り、お母さんは炭を詰める炭ｽﾞを編むといった冬の暮らし。その後の燃料革命で炭の需要は急速に減り、誰も網張周辺では炭を焼かなくなりました。岡森さんの山仕事も薪や用材向けに今のﾍﾟﾝｼｮﾝ村から有根沢沿いに伐ったのが最後だったということです。それから長い年月が経ち網張周辺の眺めもすっかり変わり、今では炭焼き当時の情景を想像することも難しくなってしまいました。

現在の網張の森、ミズナラを中心とした広葉樹の二次林。樹高と幹径がよく揃っている。国立公園指定当時は異なる景観だったであろう。

環境省盛岡自然保護官事務所からの報告

「十和田八幡平国立公園（八幡平地域）指定６０周年を迎えて」

新年あけましておめでとうございます。
本年もどうぞよろしくお願いします。

十和田八幡平国立公園は、奥羽山脈の北側、青森県、岩手県及び秋田県の３県が隣接する地域に位置し、八甲田山から十和田湖にかけての「十和田八甲田地域」とその南側約５０ｋｍに位置する八幡平から岩手山及び秋田駒ヶ岳にかけての「八幡平地域」からなります。

今年は指定から節目の年にあたり、それぞれ十和田八幡平国立公園十和田八甲田地域が指定８０周年、八幡平地域が６０周年を迎えます（昭和１１年２月１日に十和田八甲田地域、その後、昭和３１年７月１０日に八幡平地域が追加指定）。

岩手県では今年、第 71 回国民体育大会「希望郷いわて国体」が開催されるとのことですが、国体が本格的になる前の八幡平山開きにあわせた日程で八幡平市内のホテルで国立公園の指定を記念する式典の開催が予定されています。

その他、年間シーズン毎のウォーキングイベントや、シンポジウム等も行われる予定であり国立公園八幡平地域のＰＲ、地域振興にも繋がる年になればと考えています。　・河村 俊彦レンジャー・

自然観察会報告

12月20日　冬の網張の森を歩く スノーシューハイキング

◆一般参加者 22 名
パークボランティア他スタッフ 11 名

「ほんとにスノーシュー行事やるんですか？」という参加者からの問い合わせにVCスタッフはひたすら雪の降ることを祈り続けました。願いがかなって当日はうっすら雪の積もった森の中へ入りました。跳ね上がってくる笹を避けてわざわざ雪の多い所を探して歩く苦労があったものの途中大きな熊ダナを見つけたり、雪の中で冬眠中のコテングコウモリを見つけたりと出会いの多い日となりました。参加した皆さんが溌剌と楽しそうに雪上を歩いていたのがとても印象的でした。

＊インフォメーションコーナー

詳しいお問い合わせは網張ビジターセンターまで

ようこそ　網張へ　ビジターさんにインタビュー　一月の巻

・・年明け、開館直後のﾋﾞｼﾞﾀｰｾﾝﾀｰに現れた一人の男性、「だって、なはん～」と流暢な南部言葉で話しかけてきます。「ちょっといい写真とれたから持ってきた」と盛岡市の大久保利康さん。岩手山の頂上部の雪と強風で変形した高層雲を捉えた瞬間の１枚、早速館内に掲示しました。地元雫石生まれの今年７８歳。まだ現役ﾊﾞﾘﾊﾞﾘの大工さんで自然ふれあい行事の熱心なﾘﾋﾟｰﾀｰです。「古希を迎えて、少し暇ができたので山登りでもしようかと思った」そうです。ﾋﾞｼﾞﾀｰｾﾝﾀｰの最初の印象は？「温泉の帰り立ち寄ったが何の印象も残ってない」それがどうして？「登山道の無い鎌倉森に冬登りたくてﾋﾞｼﾞﾀｰｾﾝﾀｰ行事に申し込んだ。高齢だから断られるかと思ったら、あっさりOK、それ以来、入り浸るようになった」「全国自然いきものｽﾀﾝﾌﾟﾗﾘｰの年が最高だった。記念品目当てに沢山の行事に参加したなあ」・・大久保さんが行事に参加すると一気に雰囲気が変ります。初対面の他の参加者に平気で話しかけ、豊富な話題で盛り上げてくれるからです。

ﾋﾞｼﾞﾀｰｾﾝﾀｰに対し何か注文したい点は？「俺は何もないよ。高望みしない性質だからな」こんな常連さんがﾋﾞｼﾞﾀｰｾﾝﾀｰを支えてくれます。

滝沢市と共催　スノーシューハイキング
「巌鷲の滝スノーハイク」
2月21日(日)

相の沢駐車場集合
9:30～14:30
定員20名
参加費大人500円
小学生300円

雪山登山体験
「雪の鎌倉森をめざす」
3月12日(土)

網張ビジターセンター集合
9:30～14:30
定員20名
参加費大人500円
小学生300円

ミニ企画行事（予約はいりません）

「解説員と回るワクワク館内ツアー」
「自然で遊ぶミニクラフト」
「網張の森雪上ハイキング」

など週３回程度実施します。
月によって開催日が異なりますので
ホームページで確認されるか直接VCへ
お問い合わせください。

荒川 三郎写真展「滝の造形」

ビジターセンター近郊四市町村の主な滝と
岩手・秋田の思い出に残る滝

「紅葉の烏越の滝」↗
雫石町葛根田渓谷
上流部

←「真昼霊泉」
西和賀町沢内
本内川支流
真昼本沢

●現在開催中の網張ビジターセンター企画展●
2月29日までビジターセンター展示コーナーにて

荒川 三郎 氏
１９４９年生まれ　盛岡市在住

「滝を眺めていると時間が流れていることを忘れてしまうことがよくある。・・季節によって表情が違い、雪が似合う滝、緑の似合う滝、紅葉が似合う滝、氷結が似合う滝とかがあるようだ。・・展示している滝は、仕事の合間に撮り歩いた・・どんな滝か見比べて鑑賞していただくと嬉しいです」（本人談）

モモンガのつぶやき

・・前号に引き続き命について・・

年が明け、冷え込んだ朝、気分転換に歩くスキーを履いて近くの牧野に飛び出しました。雪は少なかったのですが西風が強く吹き抜け、それまでのデスクワークの疲れが吹っ飛ぶぐらい爽快です。気がつくと広い牧野を一直線に横切る足跡。キツネです。踏んだところだけ、体重がかかって雪が堅く締まり、風が柔らかい周囲を削っていくので足跡が高く盛り上がっています。その時、「ああこれって命の重さなんだ」という思いが浮かんで急に胸が熱くなりました。（たくちゃん）

十和田八幡平国立公園　網張ビジターセンター

来館者数　◆１１月 １，１４４人　◆１２月 ５３５人
朝９時のビジターセンター平均気温 ◆ 11 月 0.96℃　◆ 12 月 -4.6℃

発行　網張ビジターセンター運営協議会
〒020-0585　岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2（網張温泉）
TEL　019-693-3777　FAX　019-693-3778
URL　http://amihari17.ec-net.jp
E-mail　amihari@vanilla.ocn.ne.jp
開館　冬期（１１月～３月）毎週火曜日休館　９時～１７時